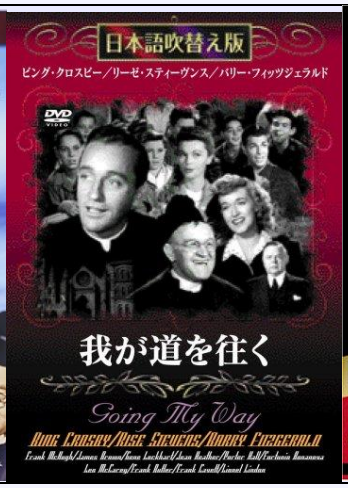
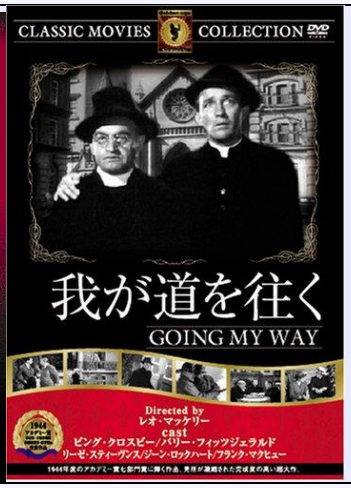
『我が道を往く』　原題 *Going My Way*　　1944 年	執筆:　清水　純子
制作国	アメリカ
スタッフ&キャスト（監督、脚本家、俳優、その他）	スタッフ：監督レオ・マッケリー/ 脚本フランク・バトラー、フランク・キャヴェット/ 原案　&　製作レオ・マッケリー/ 音楽ジェームズ・ヴァン・ヒューゼン、ロバート・エメット・ドーラン/ 撮影 ライオネル・リンドン/ 編集 ルロイ・ストーン/ キャスト：ビング・クロスビー：チャック・オマリー神父/ バリー・フィッツジェラルド: フィッツギボン神父/ リーゼ・スティーヴンス: ジュヌヴイエーヴ・リンデン/ ジーン・ロックハート: テッド・ヘインズ Sr./ フランク・マクヒュー: ティモシー・オダウド神父/ その他/
画像	 
カラー・モノクロ	モノクロ
時間	130 分
ストーリー	有能で人気もある若いオマリー神父は、財政破綻に瀕した老フィッツギボン神父が率いるニューヨークの聖ドミニコ教会に転任してくる。オマリー神父は町の不良少年を聖歌隊に育て、音楽によって教会の借金を返済し、不動産業者の信頼を得る。昔かたぎのフィッツギボン神父は抵抗を示すが、カトリック教会の世代交代の意図を感じて一人さみしく教会を去る。オマリー神父はフィッツギボン神父を探し出して暖かく迎え、二人でやっていくことを約束する。そんな時、教会が火事になり、創立者のフィッツギボン神父は落胆するが、再建すればいいと慰められる。教会の財政立て直しに成功したとトップから評価されたオマリー神父は、次の財政破綻教会のてこ入れのために転任を命じられる。聖ドミニコ教会に代わりにやってきたのは、皆と顔なじみの神父だった。
時代設定	1940 年代
場所	ニューヨーク下町の聖ドミニコ教会
社会背景	人々の教会離れにより財政的基盤の弱まるカトリック教会、ニューヨーク下町の不良少年の教育に苦心する行政。中世ヨーロッパと違って、富裕な領主の財政的援助が期待できない現代都市の教会。

文化的背景	教会が音楽の発祥地の一つである。教会は人々の心のよりどころであり、社交場である。　神父は尊敬され頼りにされているが、教会の財政は信者の寄付に多くを追っている。
使用言語	英語
テーマ	音楽によって信仰心を高め、町の人々を束ね、教会の負債を清算して、社会的に活躍するカトリック教会の神父の活躍。
みどころ	有能で個性的な若い神父が町の人々の心をつかみ、創立者である老神父とも融和して、なおかつ教会の財政逼迫を救う姿。
印象深いせりふ	This road leads to Rainbowville going my way? Up ahead is Bluebird Hill going my way?　Just pack a basket full of wishes and off you start With Sunday morning in your heart　Round the bend you'll see a sign "Dreamer's Highway"　Happiness is down the line going my way?
授業教材用 メリット	音楽に親しめる、名歌手ビング・クロスビーの歌が聞ける、欧米における教会と市民のかかわり方がわかる、カトリック教会の組織と運営法がわかる。
授業教材用 デメリット	歌が古く、現代の若者向けでない。教会に通う習慣のない日本人には、神父の社会的位置づけがわかりにくい。
映像入手元	ジェネオン・ユニバーサル/ GP ミュージアム/ファーストトレーディング/
原作の有無	無
支持反応	Rotten Tomatoes 評価（批評家 78、　観客 76 ）
キーワード	ニューヨーク、カトリック教会、音楽、聖歌隊、信者、財政基盤、火事、復興、新旧世代交代。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。